

Title	第77回岐阜外科集談会
Author(s)	
Citation	日本外科宝函 (1975), 44(6): 502-506
Issue Date	1975-11-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/208097">http://hdl.handle.net/2433/208097</a>
Right	
Type	Others
Textversion	publisher

## 10. Cystic hygroma の1例

岐大第1外科

松原長樹, 村勝知  
雑賀俊夫, 村瀬恭一

Hygroma とは一般に嚢腫, 粘液嚢腫の意味であるが, Cystic Hygroma は一層の内皮細胞で被われたリンパ性起源の嚢腫に限定して用いられる。

我々は最近新生女児にみられた Cystic Hygroma を経験したので報告する。

症例は新生女児で, 某院産科にて満期安産にて生まれた。出産直後より, 右側頸部と右腋窩, 上腕・胸部にまたがる腫瘤を認めたので, 即日当科へ紹介され入院した。

諸検査の結果, 右側頸部と右腋窩の Cystic Hygroma と診断し, 成長をまって手術する事にしたが, 生後8日目になって, 腫瘤が暗赤色となり, 貧血を認めたので, 生後16日と23日目に腫瘤剔出術を2回に分けて施行した。

本症は胎生期のリンパ嚢の遺残物より発生するといわれており, 頸部に多発するが, 時に縦隔へ浸潤し死の転帰をとる事があると言われているが, 大部分は予後良好である。

## 11. Villous Tumorの1例

岐大第1外科

安藤喜公, 伊東達次  
清水幸雄, 後藤明彦

## 12. 巨大な小児後腹膜奇形腫の1治験例

岐大 第2外科

日野輝夫, 大熊晟夫, 国枝篤郎  
県立岐阜病院小児科  
黒田 勲, 及川 肇, 竹友隆雄

生後9カ月の女児で, 左側腹部腫瘤を主訴として来院。腫瘤は成人拳大で表面平滑, 境界鮮明, 緊満弾性であり, 排泄性腎盂撮影, 大動脈造影などの検査後, 手術にて摘出した。腫瘤は多房性嚢腫で組織学的には良性形腫であった。

〔考察〕 小児の外科的腹部腫瘤の80%は後腹膜腔内に発生し, 固形腫瘍としては, ウイルムス腫瘍, 神経芽細胞腫が圧倒的に多いが, 1才未満の乳幼児に関しては, 奇形腫の頻度も高く, 3者の間に差はない。又奇形腫は小児腫瘍の約9%を示しており, 年令と発生部位の関係, 性差, 悪性の頻度に特徴が認められ, 当教室小児奇形腫例にても, この奇形腫の特異性を示している。後腹膜奇形腫は腹部腫瘤を主症状としており, 検査法として排泄性腎盂撮影, 大動脈造影, 超音波診断等は重要であり, 臨床的成績と自験例とを比較し報告した。治療としては可及的早期に摘出し十分な経過観察が必要と考える。

# 第77回岐阜外科集談会

日時: 昭和50年2月18日午後5時30分

場所: 岐阜大学病院新外来棟4階講堂

## 1. 教室における直腸脱について

岐大第1外科

伊東達次, 佐野 彰  
雑賀俊夫, 後藤明彦

我々の教室及び関連病院において, 直腸脱10例を経験した。ここに云う直腸脱は直腸壁全層の反転脱出する完全直腸脱である。性別は男5例, 女5例。年令は21才から最高78才で, 男の平均年令は40.1才, 女は

60.1才である。病歴期間は1~10年と長年にわたるものが多い。既患歴では, すでに直腸脱の手術をうけたものが3例ある。症状は肛門出血, 排便痛, 排便障害があり, 特に高度の症例では脱出時に排尿障害を伴うものが1例ある。直腸脱出の長さは5~6cm4例, 6~7cm2例, 10cm1例, 20cm1例である。手術方法はThiersch銀環法6例, 経腹の手術4例で, うちわけはタグラス嚢処理手術+S状結腸固定術1例, タグラス嚢処理手術+会陰側骨盤底補強術1例, Kümmel

変法+会陰側骨盤底補強術 1 例, Kümmel 変法のみ 1 例である。

## 2. 結腸憩室の 1 例

渡 辺 病 院 渡 辺 祥  
岐大第 1 外科 佐野 彰

患者は 65 才男子。主訴、下血腹痛。家族歴特記すべき事なし。既往症、時々腹痛を来し胃炎として加療。現病歴、昭和 49 年 12 月 6 日夜半突然下血、腹痛を来して翌日に至るも好転せず来院。現症、一般状態は大凡良好、左下腹部に圧痛を訴えるも筋性防禦、腹水徴候を認めず。直腸鏡検査、13cm まで挿入、上方より血性液流出するも出血点不明。注腸検査にて S 字状結腸充盈不全、不規則な萎縮像と数ヶ憩室像を認める。入院安静加療、下血は数日にして止るも腹痛持続するため昭和 50 年 1 月 17 日 G. O. F. 全麻下開腹術施行。腹水認めず、S 字状結腸は肥厚萎縮し周囲と癒着があり、数ヶの小豆名球形の憩室を認め、S 字状結腸切除、下行結腸・直腸端々吻合術施行。術後経過順調。上記症例を報告すると共に若干の文献的考察を行なった。

## 3. Mesodiverticular vascular band に よるイレウスの 1 治験例

岐北病院外科  
操 厚, 船越 孝  
佐治重豊, 岡本忠雄

我々は最近 mesodiverticular vascular band による腸閉塞に Mechel 憩室の捻転を併発した症例を経験したので報告する。

症例は 21 才男性である。前日突然強度の腹痛を来し来院。種々の検査結果より虫垂炎と診断し開腹したところ腸管はイレウス状態になっているにもかかわらず虫垂は正常であった。精査のため 2 時間後再開腹したところ、回腸末端に 60cm に 7.5cm 長さの Mechel 憩室を認め、さらに巾 2cm 長さ 5cm の索状物が憩室の頂点付近から発し腸間膜へと伸び、これと憩室との間に 11 側回腸がからみ、ために腸管が絞扼され腸閉塞を生じていた。又、憩室基部と索状物が各々 2 回転半時計方向に捻転し、このため憩室は necrotic となり黒褐色を呈していた。憩室を楔状に切除した。

尚 mesodiverticular vascular band のみによる腸閉塞の発生頻度を文献上から仮に統計的処理をすると 10 万人に 1 人から 20 人と云うことになる。

## 4. 外傷性横隔膜ヘルニアの 1 例

養老中央病院外科

○林 勝知, 名和光博, 関野昌宏  
岐大第 1 外科 村前 恭一

最近我々は、交通事故による横隔膜ヘルニアの 1 例を経験した。患者は左上腹部痛を主訴として来院し、入院時胸部 X 線所見で、左下肺野に鏡面像のある胃泡様のガス像を認めた。よって介連性外力による左外傷性横隔膜ヘルニアと診断し、開胸開腹による緊急手術を施行した。手術時、左横隔膜臍中心部に、15cm × 5cm の破裂孔を認め、胃、大網、肝左葉の 1 部が嵌入していたが、腹腔内臓器および肺の損傷は、認められなかった。よって裂孔部を直接、縫合閉鎖した。なお、この患者は、左上腕骨小頭骨折、左肩鎖関節脱臼を合併していた。術後経過は良好である。

## 5. 小児潰瘍性大腸炎の 1 経験例

岐大第 2 外科

山本真史, 今村 健, 檜木良友  
国枝篤郎 坂田一記

## 6. 右単睾丸症と大網による左鼠径ヘルニア を合併した 1 症例

岐大泌尿器科

島津良一, 河田幸道, 西浦常雄

単睾丸は 1 側の睾丸が完全に欠如したもので極めて希な疾患であり、右単睾丸に鼠径ヘルニアを合併した 1 症例を経験したので報告する。症例は 30 才男子で、10 年来、左陰嚢内の無痛性腫瘤と不妊を主訴としている。左陰嚢内容は拳挙大で弾力性を有し、透光性なく、左の睾丸、副睾丸は解知不能である。右の睾丸は触診上、萎縮しており、左精索静脈瘤と右の萎縮睾丸の疑いにて入院。内分泌検査にて血中の LH、FSH は高値を示めし、テストステロンは低値を示めた。手術では、左側は、大網をヘルニア内容物とした鼠径ヘルニアであり、副睾丸、精管は確認したが左睾丸は確認できず右睾丸と診断し右睾丸を生捨てを行った。睾丸の組織像は間質組織は過形成で精細胞は消失していた。以上より本症例を右単睾丸に大網による鼠径ヘルニアを合併した症例として、本邦報告 55 例を自験例を加えて統計的観察を行った。

## 7. Ellis van Creveld syndrome に伴った Common Atrium の 1 治験例

国立療養所岐阜病院外科

中納誠也, 小林君美, 井上律子  
加藤庄夫, 山里有男, 石原 浩

## 8. 開心術における膜型人工肺の使用経験

岐阜千手堂病院心臓外科

横須賀達也, 初音嘉一郎

私達は昨年後半から今年にかけて9例の開心術症例に膜人工肺(ランズエドワード型及びトラペノール型)を使用し体外循環を試みた。ここに示す症例はこのうちの8例で、良好の結果を得たので報告する。同時にガス交換能について両種肺の比較検討を行いその実態を明確にし、その使用基準を明らかにした。その結果トラペノール肺とエドワーズ肺では単位面積あたり酸素添加能で約10ccの差があり Travenol 肺が有利であるが、炭酸ガス除去能では両者に差がなかった。実際の使用例で炭酸ガス除去に関して困った症例はなく酸素飽位の使用基準が確立出来る。したがって、トラペノール肺は1平方あたり毎分625cc エドワーズ肺は440ccが適当である。次に膜型人工肺での溶血試験を試み、その量が非常に少いとを確認した。最後に膜型肺のいくつかの利点について言及する。

## 9. 失天性増帽弁閉鎖不全症の1治験例

千手堂病院心臓血圧センター

○初音嘉一郎, 横須賀達也  
初音三重子

マルファン症候群を伴う僧帽弁閉鎖不全症の手術成功例は1967年の Dietzmann らの人工弁置換成功例以来、僅か5例の報告をみるのみである。最近我々はマルファン症候群を伴う先天性僧帽弁閉鎖不全症の1例を経験したので報告した。症例は10才の女児で長身、四肢の延長、青色鞏膜、高位硬口蓋、水晶体脱臼、関節の過伸屈芽のマルファン症候群の徴候を有し、又心雑音があったが9才の頃より心不全症状が出現したので検査すると、僧帽弁閉鎖不全症と判明した。Björk-Shiley弁による僧帽弁置換術を施行、軽快した。弁膜の組織標本で粘液変性がみられた。当疾患に対する弁置換術の有効性及び手術手技の要点を論じた。

## 10. 解離性大動脈瘤(Ⅲb)の1治験例

岐阜第1外科

福田甚三, 広瀬光男, 村瀬恭一  
馬場肇逸, 鬼中惇義

主訴, 背部痛

現病歴, 7ヶ月前, 車を運転中突然上背部の激痛があり, 某病院に入院, 鎮痛剤の投与を受け, 1ヶ月程して徐々に軽快したが, その後も労作時, 左背部の鈍痛があり, 本院第1内科を受診し, 解離性大動脈瘤の疑いにて, 当科に入院した。現歴 脈拍70, 整, 血圧180~100mmHg, 心音, 清, 背部第6胸椎左側にLevine 2°Vの収縮期雑音を聴取す。

一般検査では血沈の亢進を認める以外著変なし。眼底所見は Scheie I, 胸部X線では左第1弓の著明な拡大, 第4弓の突出を認める。大動脈造影にて左鎖骨下動脈下部より解離を認め下方に及び, double barrel aorta を認めた。手術は第5肋骨切除にて開胸し, disposable-bubble-oxygenator を用い femoro-femoral bypass を行い, 胸部下大動脈に径 32mm, 10cmのWoven Teflon を用いて置換した。

なお経過は順調で術後1ヶ月で退院した。

## 11. 骨折手術後の橈骨神経麻痺の3例

岐阜第2外科

今村 健, 阿部達彦, 東 修次  
河田 良, 種村広巳, 大橋広文  
岡枝篤郎, 坂田一記

## 12. 三叉神経アルコールブロック後の疼痛に対する交感神経ブロックの効果

岐阜麻酔科

棚橋徳重, 安食 了  
伊藤雅治, 山本道雄

三叉神経痛の治療としてアルコールブロックを行なった。はじめは analgesia と共に十分疼痛の寛解が得られたにも拘らず数回ブロック療法を行なった後に、ブロックされた神経の支配領域に pinprick で十分 analgesia が得られたにもかかわらず、同部に疼痛を訴え、異状神経ブロックで自覚痛の軽快した症例を報告し、その痛みが交感神経ブロックの著効により自律神経反射性疼痛と考えられる。三叉神経アルコールブロック療法中は、2次的に引き起こすと考えられる自律神経反射性疼痛を考え、診断的意味を含めて、交感神経ブロックを行ってみる事も必要かと思われる。

## 13. Emergency in Urology 当教室における統計的観察と閉塞性無尿についての考察

岐阜泌尿器科

野村恭淳, 河田幸道, 西浦常雄

#### 14. 16年前に発生したと考えられる石灰化を伴った慢性硬膜外血腫の1例

大雄会第1病院脳神経外科

山森積雄, 坂井 昇

岐大第2外科 山田 弘

岐阜市民病院病理 加地秀樹

症例 Y. N. 61才 男子

既往歴 昭和33年喧嘩の仲裁に入ったところ、丸太で左頭頂部をなぐられその後激しい頭痛を訴え、2～3ヶ月自宅で臥床していた。

現病歴 昭和42年頃から頭痛高血圧食後の呼吸困難等を訴え、悪性高血圧の診断のもとに、加療をうけていたところ、同様の症状が増強し昭和49年11月19日当院内科に入院した。

経過 12月22日右上肢に始まり右下肢に及ぶ間代性でかん重積状態に陥入り、当科に転科した。頭部単純写において前後像でレンズ型、側面像で左頭頂部に9×4.5cmの橢円型リング状石灰化を認め、手術により慢性硬膜外血腫と判明し全摘出を行った。若干の文献的検討を加え、報告した。

#### 15. 原発巣の不明な adenoid cystic carcinomaの頭蓋底転移の1例

岐大第2外科

岸木 恭, 中条 武, 土屋十次  
広瀬 旭, 坂田一記

#### 16. 顎骨内epidermoid cystの2例

岐阜口腔外科

小島孝司, 大沢一也  
立松憲親, 岡 伸光

吾々は顎骨内に発生した epidermoid cyst の2例に遭遇したので報告する。

症例Ⅰ, 55才, 女性。主訴: 左側頬部腫脹, 現病歴: 昭和27年7月当科初診, エナメル上皮腫の疑いで手術を勧められたが, 自覚症状軽度であった為放置, 再来昭和49年4月11日, Ⅷ部の腫脹及び頬部の腫脹が消退しない為来科した。現症: レントゲン所見でⅧ部より上行枝部に鶏卵大の橢円形球で単房性の骨吸収像を認め, エナメル上皮腫が疑われたが, 試験組織片所見及び内容物で epidermoid cyst と診断された。

症例Ⅱ, 32才, 男性。主訴: Ⅷ部の疼痛。現病歴: 数年前Ⅷの抜歯を受けた部位が, 1ヶ月前より疼痛を

来たし, レントゲン診査で腫瘍を指摘された。現症: レントゲン所見でⅧ部より上行枝部を満たす鶏卵大で単房性様の骨吸収像を認めた。内容物及び試験組織片で epidermoid cyst と診断された。顎骨内 epidermoid cyst は比較的稀であるので文献的考察を加えて報告する。

#### 17. 原発性胆嚢肉腫 (Liposarcoma) の1例

松波病院外科

和田英一, 松波英一  
吉田敏生, 松浦昭吉

66才, 女子, 上腹部痛, 背痛の主訴で来院, 黄疸及び右腹部腫瘤を指摘されて入院し, 開腹手術(胆のう内胆石摘出手術)を施行, 一時的な症状の軽減と検査成績の改善をみたが術後3ヶ月で死亡した1例を報告し, 併せて若干の文献的考察を加えた。

#### 18. 噴門部胃平滑筋腫の1治療例

岐阜病院外科

船越 孝, 操 厚  
佐治董豊, 岡本忠雄

噴門部前壁の胃壁に3個の腫瘤を形成した胃平滑筋腫を経験した。症例, 36才, 女性, 胸やけと吞酸を認め受診。胃透視にて胃食道境界部近くにクルミ大橢円形の限局性隆起性病変があり, 腫瘤の輪カクは明瞭且つ滑めらかで, 腫瘤上の粘膜に凹凸不整なし。粘膜下腫瘍の診断で手術した。

手術所見, 胃食道境界部に近い胃前壁の壁外にクルミ大, 橢円形の軟い腫瘤があり, 更にこれに接した胃内腔に同大の腫瘤を触知した。噴門側胃部分切除, 食道胃吻合術兼幽門形成術を施行した。切除標本, 壁内腫瘤が3.5×2.5×1.5cm, 壁外腫瘤が3.0×2.5×2.0cmで両者に連続性は全くなかった。又, 壁外腫瘤は大豆大の腫瘤と主腫瘤の2個に更に分れており, この間にも連続性はなかった。

組織所見, 壁内腫瘤は固有筋層内に存在し, 壁外腫瘤は筋層の外に突出しているが漿膜外へは出ていない。いずれも, 良性の平滑筋腫の像であった。

#### 19. 胃悪性リンパ腫の4例

岐阜市民病院外科

三輪 勝, 山本 悟, 敷波 晃  
上松治隆, 高井清一, 渋谷智頭  
伊藤隆夫, 田中千凱, 島田 脩

当科で最近5年間に胃悪性腫瘍271例を扱ったが,

このうち悪性リンパ腫 4 例を経験したので報告する。組織学的診断は細網肉腫、ホジキン肉腫各 1 例、悪性リンパ腫 2 例である。年齢別は 50 才代、60 才代各 2 例で、性別は男性 3 例女性 1 例で、発生部位は中部、上部各 2 例でいずれも大彎側である。術前に肉腫と診断出来た 1 例の診断法は胃生検によるものであった。3 例は胃切除術を行ない、1 例は試験開腹術であった。1 例は術後 4 年 2 カ月現在、2 例は術後 1 年現在健康で、1 例は術後 85 日で死亡した。これらの 4 症例を報告し、若干の文献的考察を加えた。

## 20. 胃非上皮性腫瘍 4 例

県立岐阜病院外科

本多雅昭、三尾六蔵、石井雄二  
川迫堯之、伴 邦充、須原邦和  
同病院研究検査科 青木 敦

我々は最近経験した胃非上皮性腫瘍の 4 例を報告した。

症例 1：52 才、男 主訴、は心窩部痛。胃亜全摘除術を施行。病理組織学的には胃体部のリンパ肉腫であった。症例 2：53 才男。主訴はタール様便。胃全摘除術を施行。病理組織学的には胃底部平滑筋肉腫であった。症例 3：42 才男。自覚症を欠くも胃集検にて発見された幽門の前庭部腫瘍。胃切除術を施行。病理組織学的には平滑筋芽細胞腫であった。症例 4：46 才男。主訴は心窩部痛。胃全摘除術を施行。病理組織学的には胃底部リンパ肉腫であった。症例 1、4 には術後抗悪性腫瘍剤を投与した。全例それぞれ手術の 4、8、3、8 ヶ月後健在であるが、今後の経過観察を要するものとする。